

# 決算査

# 決算特別委員会

委員長 弥吉治一郎

一般会計の歳入188億円余の質疑では、市税の滞納問題、22年度に徴収不能と認定し不能欠損金として処理された約7,700万円について、滞納金の徴収方法、特に市が22年度に固定資産税の滞納額を約2,000万円、徴収不能として欠損処理したことに質問が集中した。市民税、固定資産税、国民健康保険税まで合計すると約8億5,000万円に及ぶ市民税滞納額の徴収対策について、市は固定資産税では土地や建物などの固定資産には複数の抵当権が設定されている場合があり、差し押さえも実効がない資産もある。価値のある固定資産には資産の相続人への面談、動産、不動産の差し押さえなど滞納対策を強めていると答弁。

一般会計の歳出に関する質疑では、ごみ処理の経費が年3,000万円も伸び続け22年度はごみ収集と処理経費で7億円になっていることに対し徹底した経費の見直しを求める意見が出された。温泉入浴施設「恋ぼたろ」の工事では途中解体となったのは、入札参加資格のない建設業者を参入させたのが原因ではないかなど、法律に基づいた例規の整備がなされておらず建設業法に違反した業者選定ではないかと指摘された。

市は違法ではないと答弁したが、例規整備の遅れを認め、今後改めていくと答弁。

年間159件に及ぶ市民からの道路、側溝等の維持補修の要望への対応について、大型事業も終わり財政にもゆとりが出たはずだとして、今後は地域の生活道路整備などへの予算確保を求めるとの意見が出された。22年度末で308件の要望が未処理となっている。

事業推進のための予算確保には考慮する考えが表明された。

介護保険特別会計では介護認定者も増加、デイサービスなどの利用増で第5期(24年度)から月平均1,000円程度保険料の値上げが必要との見通しが示された。

22年度の決算は市議会に提出された全会計が認定された。

## ◇平成22年度一般会計の決算額

区分	歳入(A)	歳出(B)
決算額	188億1,059万5千円	180億417万2千円
対前年度比	10.20%	12.40%

## ◇平成22年度特別会計の決算額

会計区分		決算額 (対前年度比)		会計区分		決算額 (対前年度比)	
国民健康保険	収入	52億8,763万1千円(0.6%)		市営住宅 敷金管理	収入	2,593万7千円(△1.1%)	
	支出	52億5,250万4千円(1.9%)			支出	103万2千円(△5.2%)	
老人保健	収入	1,123万9千円(△41.5%)		住宅新築 資金等貸付	収入	1,104万8千円(△55.1%)	
	支出	1,123万9千円(11.1%)			支出	6,990万5千円(△21.7%)	
後期高齢者医療 特別会計	収入	5億3,036万9千円(5.0%)		下水道事業	収入	10億8,540万6千円(15.9%)	
	支出	5億1,654万1千円(6.3%)			支出	10億8,202万7千円(17.8%)	
介護保険	保険事業勘定	収入	28億4,026万1千円(3.5%)				
		支出	28億82万9千円(2.9%)				
	地域包括 支援センター 事業勘定	収入	3,692万5千円(1.6%)				
		支出	3,044万4千円(1.7%)				



## ◇平成22年度企業会計の決算額

会計区分		収益的収支 (対前年度比)		資本的収支 (対前年度比)	
病院事業	収入	36億5,236万2千円(8.1%)		収入	2億8,432万2千円(19.5%)
	支出	38億2,889万4千円(11.0%)		支出	4億2,917万4千円(15.8%)
水道事業	収入	6億7,805万5千円(0.7%)		収入	6,197万8千円(68.2%)
	支出	5億473万7千円(7.0%)		支出	2億1,181万2千円(△36.0%)